

1 事業名 平成30年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「ツール・ド・I☆B～夏の7days キャンプ～」

2 趣 旨

豊かな自然環境の中で、自然体験活動及び野営や炊事などの自立を促す生活体験活動をとおして、仲間の大切さや協力することの大切さを学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。

3 期 日 平成30年7月29日（日）～8月4日（土）

4 参加者 岩手県内 小学5年生～中学2年生 15名 男子9名 女子6名
（青森県内 小学5年生～中学2年生 15名 男子9名 女子6名）

※県別参加人数の内訳

都道府県	参加人数	5年	6年	中学1年	中学2年
岩手県	15名	8名	5名	1名	1名
青森県	15名	6名	5名	2名	2名

5 後援・協力 岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 滝沢市教育委員会 八幡平市教育委員会
雫石町教育委員会 株式会社サラダファーム 妻の神キャンプ場 岩手山国際交流村
八幡平市田山コミュニティーセンター 鹿角市文化の杜交流館コモッセ
小坂町立総合博物館 あじやらの森キャンプ場

6 内 容

(1) 日 程

7月29日(日)	10:15	受付	11:00	12:00	13:00	14:30	15:30	18:00	19:00	20:30	21:30	
		アイスブレイク	出合いのついで	昼食(館内食)	熱中症講座	撤収(練習)	テント設置・MB整備作業	マウンテンバイク 隊列走行(練習) (交流の家敷地内→ロードへ)	夕食(館内食)	旗への寄せ書き (個人・グループ)	目標設定 (個人・グループ)	入浴 (館内浴室)
【岩手山青少年交流の家】												

7月30日(月)	6:00	7:30	8:30	12:00	13:00	14:30	16:00	18:30	20:00	21:30	22:00		
	清掃・準備	起床・洗顔	朝食(館内食)	マウンテンバイク 隊列走行 (岩手山交流の家～妻の神)	昼食(弁当)	ベントドメイン	テント設置・川遊び	野外活動	夕食(野外炊事)	入浴(温泉浴)	ファイヤー	野外活動	ふりかえり
【発：岩手山青少年交流の家】→【着：松尾(妻の神広場キャンプ場)】 荒天時：焼け走り国際交流村泊													

7月31日(火)	6:00	6:30	8:00	9:00	12:00	13:00	16:00	21:30	22:00
	起床・洗顔	朝食(野外炊事)	テント撤収	マウンテンバイク 隊列走行 (妻の神～安比高原)	昼食(弁当)	マウンテンバイク 隊列走行 (安比高原～田山)	〈防災キャンプ体験〉 ・夕食～火起こし、備蓄食での食事作り ・宿泊～段ボールでのしきり作り など	ふりかえり	館内泊
【発：松尾(妻の神広場キャンプ場)】→【着：田山(田山スポーツ交流館)】									

8月1日(水)	6:00	6:30	8:30	11:30	12:30	15:00	17:00	18:30	19:00	21:00	22:00	
	起床・洗顔	朝食(野外炊事)	マウンテンバイク 隊列走行 (田山～鹿角)	昼食(弁当)	マウンテンバイク 隊列走行 (鹿角～小坂)	ツールバイク・トロニック体験	野外活動	入浴(温泉浴)	宿へ移動	夕食(市内(外食))	中間発表	ふりかえり
【発：田山(田山スポーツ交流館)】→【着：小坂(旧工藤家中小路の館)】												

	6:00	6:30	8:30	12:00	12:30	13:30	14:30	15:30	18:00	20:30	21:30	22:00
8月2日(木)	起床・洗顔	朝食 (炊事)	マウンテンバイク 隊列走行 (小坂～ 碓ヶ関)	昼食(弁当)	入浴 (温泉浴)	M.B.隊列走行 (碓ヶ関～ あじやら)	テント設置 ベッドメイキング	野外活動 「燻製作り 体験」	夕食 (野外炊事)	野外活動 「花火大会」	ふりかえり	テント泊
【発：小坂（旧工藤家中小路の館）】→【着：大鰐（あじやらの森キャンプ場）】 荒天時：中央公民館泊												
	6:00	6:30	8:00	9:00	11:30	13:00	16:30	19:00	20:30	21:30		
8月3日(金)	起床・洗顔	朝食 (野外炊事)	テント撤収	マウンテンバイク 隊列走行 (あじやら～ 田舎館)	田んぼアート 見学	昼食(弁当)	マウンテンバイク 隊列走行 (田舎館～ 梵珠自然の家)	夕食 (野外炊事) 「ゲームタイム」	ふりかえり	テント設置	入浴 (館内浴室)	テント泊 (体育館)
【発：大鰐（あじやらの森キャンプ場）】→【着：梵珠少年自然の家】												
	6:00	7:00	8:30	10:00	11:15	11:45	14:45					
8月4日(土)	寝袋乾燥 起床・洗顔	朝食 (炊事)	創作活動 「思い出 クランプ」	ふりかえり	テント・寝袋 収納	別れのつどい	【岩手組】 岩手山青少年 交流の家へ 移動(バス) ※昼食：弁当	(雨天決行としますが、荒天時には、活動内容を一部変更・短縮して行う場合があります。)				
【梵珠少年自然の家】												

(2) 指導者

- ・株式会社大塚製薬工場 OS-1 事業部仙台支店 盛越琢朗 氏 【熱中症講座】
- ・国立岩手山青少年交流の家職員・ボランティア 【生活全般，交流の時間の指導】
- ・青森県立梵珠少年自然の家職員・ボランティア 【生活全般，交流の時間の指導】

(3) 企画のポイント

かねてより交流のあった青森県立梵珠少年自然の家が、昨年度実施した自転車での移動と自然体験活動を組み合わせた6泊7日の事業を、今年度は共催で行った。

これは、国立青少年教育振興機構第3期中期目標・中期計画の自立する青少年育成の推進(2)の青少年教育に関する地域力向上等の為のモデル的事业の開発(a)豊かな人間性を育む長期自然体験活動事業の推進を念頭に置き、1週間以上の長期自然体験活動事業を見据えた事業である。

特に、自転車走行については梵珠少年自然の家の実施実績を参考にし、安全を第一に協議し当日までの準備を行った。170kmの走行に際しては、両施設合同で全ての経路を実地踏査し、走行路や休憩所、体験場所などを確認した。実地踏査を踏まえ参加者が安全に走行できる経路について検討を重ねた。

両施設とも、募集以上の申込みがあり参加者と保護者の面接を行い選抜した。選抜の主なポイントは参加意欲と自転車移動170kmを走破できる体力があるかどうかを特に重視した。

今回の事業では、岩手県と青森県の参加者が毎日のプログラムの体験をとおして人とかがわる能力を高めたり、協力して活動する楽しさを体験したりできるように企画した。自転車走行がメインではあるが、川遊び体験や防災キャンプ体験など日替わりのプログラムを用意し、参加者の意欲の向上と生きる力を身につけられるようにした。

また、自転車走行を前に、熱中症講座を組み込み運営側だけでなく参加者自身が熱中症の知識を持ち自分で対処できるようにした。

(4) 広報のポイント

岩手県側では、年度当初に全県の小学生児童に本事業も含めた年間事業チラシを配付した。事業1ヶ月前には、全県下の中学校に2部ずつポスターを配付し参加を呼びかけた。さらにホームページに募集要項を掲載するとともに、各教育委員会や報道機関へ開催要項とチラシを送付し、本事業開催についての広報を図った。

その結果15名の定員に対して、全県下から23名の応募があった。

(5) 運営のポイント

一週間を通して自転車走行で最後までやりきれないように食事、睡眠、時間を意識した基本的な生活習慣を崩さないようにプログラムを運営した。自転車走行の先導と各種プログラムの計画や準備は日程前半を岩手山側が、後半は梵珠側が担当した。

それぞれの施設で対応できる参加者の人数を15名とし、施設毎に移動班を5人ずつ3班にした。それとは別に、各プログラムを行う際は岩手と青森の参加者が交流できるよう学年、男女を考慮し、活動班を5人ずつ6班に編成した。また、学生のボランティアスタッフを、各班の支援者として配置した。参加者の活動が自発的なものになるための工夫として、毎日の活動の最後に「ふりかえり活動」を設けた。

170kmを達成した際にゴールパーティーとして互いの健闘を称え合う時間を設けた。最終日には、活動の記録を思い出として残すために「フォトフレームづくり」を行った。

健康面における配慮として、健康観察は朝と夜に行い、体調や排便の有無、薬の服用について聞き取りをするとともに、必要に応じて家庭と連絡を取り合った。

参加者の就寝後にボランティアを含めたスタッフミーティングを設定し、共有すべき内容や懸念される子ども達への対応を出し合い、その対策を話し合う場とした。

事業全体をとおして、時間を意識して行動することを心がけさせるため、次の活動に移るまでの時間の目安を口頭で伝えるようにした。また、より成長した自分になっていけるように不足している面を改善できるように個々に目標を意識させ、実行できるようにした。

また、人とかかわる力や集団生活のマナーを学びながら、意欲を持続させるためにボランティアの力を得て事業を推進した。

7 成果とその普及

初日に、出会いのつどいとアイスブレイクを行うことで両県の枠を超え班のメンバーやボランティアスタッフと打ち解けることができていた。また、一週間を通して移動班になったり活動班になったりの活動であったが、初日から最終日までそれぞれの班内でコミュニケーションをとりながら協力して活動できていた。「楽しい遊びでたくさんのお友達ができた。」「みんなと仲良くなれたので安心しました。」等の感想から、良好な人間関係づくりを構築することができたといえる。活動の中で、普段の生活にあるメディアから1週間離れても、仲間と過ごすことの方が楽しいと言っていた参加者もいた。人と関わることに楽しみを感じられたことは大きな成果であった。

また、170km走破という大きな目標を達成した参加者は、一週間という短い期間の中で心も身体も大きく成長していた。「この7日間のキャンプは生きてきた中で最高の思い出になりました。新しい仲間と友達になって話ができました。また同じ事業があれば参加したいです。世界一のキャンプでした。」「マウンテンバイク走行では坂梨峠を登ったり下ったりし、最後にゴールした時のみんなが喜んだときの達成感はとても良くて、最初は苦しかったけどゴールするととても気持ちがいいと分かりました。」という感想からも伺うことができる。

事業のはじめにIKR調査を行ったが、面接を受け決定した参加者であるため非常に高い値を示していた。一週間、寝食を共にし、様々なプログラムを行うことで事業終了後のIKR調査では、更に高い値になった。

今回、岩手県と青森県の参加者が一週間の事業を通して深く交流し、互いの頑張りを称え、再会を誓い合う姿が見られキャンプの目的が達成できたと確信した。

最後に、この長期キャンプを支えている岩手県と青森県のボランティアが交流する機会となったことも成果の一つであった。

8 今後の課題

一週間の自然体験活動を実施する上で、天候も大切な要素である。今回は台風が生じる時期であったが進路が大きくそれたためその点では大丈夫であった。気温が35度に迫る日もあり猛暑日に事業を継続することは非常に難しいと感じた。緊急時だけでなく暑さに備えた対策についても検討していく必要がある。

また、両施設で、話し合いを重ね当日を迎えたが、事業の趣旨に関わるとらえやプログラム内容、食事づくりの役割分担、時間設定等に認識の違いが生じる場面があった。二つの施設で共催事業を行うために綿密な打ち合わせをしてきたが、実際の場面を想定した打合せができていなかったと感じた。



はじめの会の全体写真



隊列走行の様子



再会を誓い合って別れを惜しむ様子